

AA

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 63-154865
 (43)Date of publication of application : 28.06.1988

(51)Int.CI. F03B 13/12
 F03D 3/00

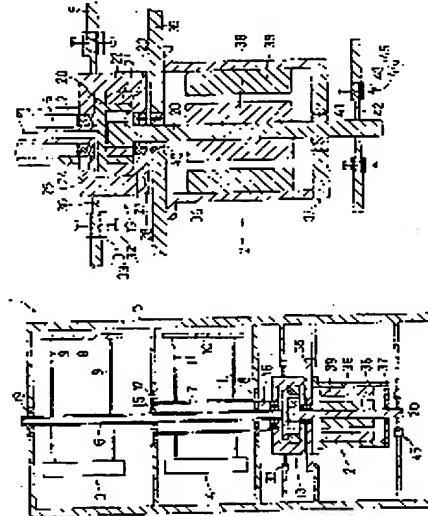
(21)Application number : 61-304093 (71)Applicant : ORIENTAL KIDEN KK
 (22)Date of filing : 19.12.1986 (72)Inventor : OISHI TSUYOSHI
 SEKI KAZUICHI

(54) DRIVEN DEVICE UTILIZING FLUID FORCE

(57)Abstract:

PURPOSE: To enable the generation of the output of a sufficiently high rotation speed even if the rotation speed of an impeller, by a method wherein the rotation power of the solar gear of a planetary gear device coupled to two rotary shafts rotated in reverse direction to each other is outputted.

CONSTITUTION: In a generator 1, rotary shafts 6 and 7, having two impellers 3 and 4 rotated in a reverse direction to each other by dint of fluid flowing in one way, are situated coaxially. The one rotary shaft 7 is coupled to a ring gear 22 of a planetary gear device 13 disposed to rotary shafts 6 and 7, and the other rotary shaft 6 is coupled to a support member 28 rotatably supporting a planetary gear 21. This constitution outputs the rotation power of a solar gear 23. In this case, since the rotation direction of the two impellers 3 and 4 are reverse to each other, the rotation speed of the solar gear 23 is increased, and even if the rotation speeds of the two impellers 3 and 4 are low, the solar gear 23 can be rotatably driven at a high speed.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

BEST AVAILABLE COPY

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C) 1998,2003 Japan Patent Office

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公報
 ⑪ 特許出願公告 平3-10037
 ⑫ 特許公報 (B2)

⑬ Int. Cl.
 F 03 D 3/02
 F 03 B 13/12

識別記号 A
 庁内整理番号 8409-3H
 6682-3H

⑭ ⑮ 公告 平成3年(1991)2月12日

発明の数 1 (全8頁)

⑯ 発明の名称 風力発電装置

⑰ 特 願 昭61-304093
 ⑱ 出 願 昭61(1986)12月19日

⑲ 公 開 昭63-154865
 ⑳ 昭63(1988)6月28日

⑪ 発明者 大石 強 奈良県奈良市青垣台1丁目1番地1号

⑪ 発明者 関 和市 神奈川県伊勢原市高森台2-8-5

⑪ 出願人 オリエンタル機電株式 大阪府大阪市南区南船場4丁目12番8号

会社

⑪ 代理人 弁理士 西教 圭一郎

審査官 銀治 沢 実

⑯ 参考文献 特開 昭56-129772 (JP, A)

1

⑯ 特許請求の範囲

1 一方向に流過する風によつて相互に逆回転方向に回転する少なくとも2つの羽根車を有する回転軸を同軸に設け、

これらの羽根車を有する回転軸に配置した遊星歯車装置のリング歯車に一方の羽根車の回転軸を連結し、

遊星歯車を回転自在に支持する支持部材に他方の羽根車の回転軸を連結し、

太陽歯車には、第1コイルと、その第1コイルに接続される第1スリップリングが固定され、

リング歯車には、第1コイルに対向する第2コイルと、その第2コイルに接続される第2スリップリングが固定され、

固定位置には、第1および第2スリップリングに接触するブラシが設けられ、

第1および第2コイルの一方を励磁して、他方から起電力を導出することを特徴とする風力発電装置。

発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、風力発電装置に関する。

従来技術

典型的な従来技術は、風力を利用して羽根車を回転させて発電を行なう発電機に代表される。こ

2

のような従来技術によれば、一方向の風により羽根車の軸は、1回転方向にのみ回転し、この回転軸に発電機の入力軸を固定して発電を行なつていた。

5 発明が解決すべき問題点

上述したような従来技術では、風速が大きくなれば充分な発生電圧および希望する周波数を有する電力が得られなかつた。

本発明の目的は、上述の問題点を解決し、羽根車の回転速度が低くても、充分に高い回転速度の出力を得ることができるようにした駆動装置を提供することである。

問題点を解決するための手段

本発明は、一方向に流過する風によつて相互に逆回転方向に回転する少なくとも2つの羽根車を有する回転軸を同軸に設け、

これらの羽根車を有する回転軸に配置した遊星歯車装置のリング歯車に一方の羽根車の回転軸を連結し、

遊星歯車を回転自在に支持する支持部材に他方の羽根車の回転軸を連結し、

太陽歯車には、第1コイルと、その第1コイルに接続される第1スリップリングが固定され、

リング歯車には、第1コイルに対向する第2コイルと、その第2コイルに接続される第2スリッ

プリングが固定され、

固定位置には、第1および第2スリップリングに接触するブラシが設けられ、

第1および第2コイルの一方を励磁して、他方から起電力を導出することを特徴とする風力発電装置である。

作用

遊星歯車のリング歯車に一方の羽根車の回転軸を連結し、遊星歯車を支持している回転部材を他方の羽根車の回転軸に連結し、2つの羽根車の回転方向を相互に逆方向としたので、リング歯車の回転速度をn1、回転部材の回転速度をn2とするとき、太陽歯車の回転速度n3は、

$$n_3 = n_2 + (n_2 - n_1) \times \frac{z_1}{z_3} \quad \cdots (1)$$

となり、増速される。ただし、z1はリング歯車の歯数、z3は太陽歯車の歯数である。

したがつて2つの羽根車の回転速度が低速であつても、太陽歯車を高速で回転駆動することができる。特に本発明では、太陽歯車には第1コイルを固定し、リング歯車には第2コイルを固定するようにし、第1および第2コイルのいずれか一方を励磁し、いずれか他方から起電力を導出するようにしたので、風速が低くても、起電力を確実に発生させることができるという優れた効果が達成される。

実施例

第1図は本発明の基礎となる構成を示す発電機1の断面図であり、第2図は発電手段2付近の拡大断面図であり、第3図は発電機1の回転部分付近の斜視図であり、第4図は第3図の切断面線IV-IVから見た断面図である。第1図～第4図を参照して、発電機1の構成について説明する。発電機1は大略的に発電手段2と、2組の羽根車3、4とが枠体5に支持されており、2組の羽根車3、4の回転軸6、7と発電手段2とは遊星歯車13を介して連結されている。以上のような構成で2組の羽根車3、4が風力によって回転し、発電手段2によって電力が得られるものである。羽根車3は、長手方向に垂直な断面が液滴形を有する羽根8と、羽根8を上下方向に延びる第1回転軸6に支持するための一対の支持棒9とを含む。羽根8はその長手方向を、第1回転軸6の軸線に平行に、一対の支持棒9によって第1回転軸6に

支持されている。一対の支持棒9は、相互に平行で第1回転軸6および羽根8の長手方向に垂直で、一定の間隔があけられている。以上のような構成で、3組の羽根8が第1回転軸6の周方向に沿つて等間隔をあけて取付けられている。

羽根車4も羽根車3と同様に、長手方向に垂直な断面が液滴形を有する3組の羽根10が一対の支持棒11によって第2回転軸7に取付けられているが、羽根10の取付方向は、第4図に示されるように、羽根8とは逆方向である。したがつて、たとえば矢符12で示される方向の風を受けた場合、第1回転軸6は時計まわりに、また第2回転軸7は反時計まわりに回転し、その回転方向は相互に逆方向となる。

第1回転軸6と第2回転軸7とは同軸に形成されており、両者間に軸受15、16が介在される。この軸受15、16は、第1回転軸6と第2回転軸7との回転方向や、回転速度の差異に対して両回転軸6、7を円滑に支持し、かつ前記同軸の関係を保持する役割を果たしている。

第2回転軸7は、軸受17、18によって枠体5に回転自在に保持されている。第1回転軸6は、当該回転軸6の頂部付近に設けられた軸受19によって枠体5に保持され、また前述したように軸受15、16によつても、第2回転軸7を介して枠体5に保持される。

第1回転軸6と第2回転軸7とは、遊星歯車装置13を介して発電手段2の入力軸20に連結されている。第1回転軸6は遊星歯車装置13の遊星歯車21を軸支している取付部材28に、第2回転軸7は遊星歯車装置13のリング歯車22にそれぞれ連結されており、太陽歯車23には発電手段2の入力軸20が連結されている。入力軸20は、第1回転軸6および第2回転軸7と同軸に形成される。第1回転軸6と第2回転軸7との遊星歯車装置13との連結部付近には軸受24が介在されており、また遊星歯車装置13内にたとえば塵埃などの異物が混入しないようにシール手段25が設けられる。また、入力軸20とリング歯車22との間にも軸受26が介在されており、両者の回転方向や回転速度の差異に対して、円滑に支持している。軸受26付近にも前述同様に、シール手段27が設けられている。以上のように、遊星歯車装置13を用いることによつて第1回転

軸 6 および第 2 回転軸 7 と入力軸 2 0 とを同軸に設けることができ、装置が小形化でき、かつ高い増速比が得られる。

遊星歯車装置 1 3 のリング歯車 2 2 の外壁に沿って、環状のブレーキディスク 3 0 が固着されており、ブレーキディスク 3 0 の上下面には一对のブレーキシュー 3 1 が挿圧可能な状態に設けられている。ブレーキシュー 3 1 は、たとえば油圧シリンドラ 3 2 などによってブレーキディスク 3 0 を挿圧する。これによってリング歯車 2 2 の回転を抑制することができる。以上のように、ブレーキシュー 3 1 および油圧シリンドラ 3 2 によって第 1 制御手段 3 3 を構成している。

発電手段 2 は、基台 3 5 に円筒状のケーシング 3 6 の一方開放端部が固定されており、他方開放端部は端板 3 7 によって封止されており、基台 3 5 は枠体 5 に固定されている。ケーシング 3 6 の中心には前記入力軸 2 0 が挿通され、入力軸 2 0 はコイルが巻回されたロータ 3 8 を有する。ケーシング 3 6 の内面に沿つては、電磁コイルから成るステータ 3 9 が設けられる。入力軸 2 0 は、基台 3 5 および端板 3 7 に軸受 4 0、4 1 を介して、その軸線まわりに回転自在に支持されている。

本実施例の発電手段 2 は誘導発電機および同期発電機であつてもよく、誘導発電機であるときにはロータ 3 8 に巻回されているコイルの両端は相互に接続されており、ステータ 3 9 である電磁コイルから誘起起電力を導出することができる。

入力軸 2 0 は端板 3 7 より外方へ突出して設けられており、該突出部には環状のブレーキディスク 4 2 が固着されており、前述の第 1 制御手段 3 3 と同様にブレーキシュー 4 3 および油圧シリンドラ 4 4 とから第 2 制御手段 4 5 が設けられている。第 1 制御手段 3 3 および第 2 制御手段 4 5 は、枠体 5 に固定されている。

第 1 制御手段 3 3 によって制動することによつて、羽根車 3、4 が高速回転しすぎると太陽歯車 2 3 が異常に高速回転することを阻止し、リング歯車 2 2 の回転を抑制することができる。また、全く発電を行なわないときには、第 1 制動手段 3 3 と第 2 制動手段 4 5 とによつて、リング歯車 2 2 と太陽歯車 2 3 との回転を阻止する。

以上のような構成で、たとえば矢符 1 2 方向の

風に対して羽根車 3、4 の回転速度が低くとも、遊星歯車装置 1 3 を介することによつて、入力軸 2 0 に高い回転速度が得られ発電が可能となる。

前述の構成において、第 1 回転軸 6 および第 2 回転軸 7 は、遊星歯車装置 1 3 を介して入力軸 2 0 に連結されたが、遊星歯車装置 1 3 は第 5 図に示されるように、遊星ローラ装置 5 0 であつても構わない。遊星ローラ装置 5 0 は遊星歯車装置 1 3 の各歯車に代えてローラを用いたもので、リングローラ 5 1 内に遊星ローラ 5 2 と太陽ローラ 5 3 とを有する構成となつており、遊星歯車装置 1 3 よりも高速回転、低騒音、低振動、高い回転精度などが得られる。

第 6 図は本発明の基礎となる他の構成を示す発電機 1 a の簡素化したブロック図である。この構成は、前述の構成に類似し、対応する部分には同じ参照符を付す。この構成における発電機 1 a は、発電手段 2 に直列に第 2 の発電手段 2 a が設けられており、発電手段 2 の入力軸 2 0 と発電手段 2 a の入力軸 2 0 a とは、遠心クラッチ 5 5 を介して連結されている。入力軸 2 0 の回転速度が予め定めた回転速度以上になつたときに、第 2 の発電手段 2 a の入力軸 2 0 a に回転駆動が伝達されるように遠心クラッチ 5 5 が連結状態となり、入力軸 2 0 の回転速度が予め定めた回転速度未満では、遠心クラッチ 5 5 は遮断状態となつていい。このようにして第 1 回転軸 6 および第 2 回転軸 7 の回転速度が比較的大きいときには、複数の発電手段を継続して設けることができる。

第 7 図は本発明の一実施例の拡大断面図である。本実施例は第 1 実施例に類似し、対応する部分には同じ参照符を付す。第 1 実施例同様に、第 1 回転軸 6 は遊星歯車装置 1 3 a の遊星歯車 2 1 を軸支している取付部材 2 8 に、第 2 回転軸 7 は遊星歯車装置 1 3 a のリングギヤ 2 2 a にそれぞれ連結されている。太陽歯車 2 3 には発電手段 6 0 の第 1 回転子 6 1 の入力軸 6 2 が連結されており、リングギヤ 2 2 a には発電手段 6 0 の第 2 回転子 6 3 の入力軸 6 4 が連結されている。

入力軸 6 2 および入力軸 6 4 は、第 1 回転軸 6 および第 2 回転軸 7 と同軸に形成されており、その軸線まわりに回転自在であり、その回転方向は相互に逆方向に選ばれる。また、入力軸 6 2 と入力軸 6 4 との間には軸受 6 5、6 6 が介在され

る。この軸受 6 5, 6 6 は入力軸 6 2 と入力軸 6 4 との回転方向や、回転速度の差異に対して、両入力軸 6 2, 6 4 を円滑に支持し、かつ前記同軸の関係を保持する役割を果たしている。第2回転子 6 3 の入力軸 6 4 は軸受 6 7 によって基台 7 0 に回転自在に保持されており、第1回転子 6 1 の入力軸 6 2 は前述したように軸受 6 5, 6 6 によって第2回転子の入力軸 6 4 を介して基台 7 0 に保持される。

発電手段 6 0 は、基台 7 0 に円筒状のケーシング 7 1 の一方開放端部が固定されており、他方開放端部は端板 7 2 によって封止されて、基台 7 0 は枠体 5 に固定されている。ケーシング 7 1 内には、前記入力軸 6 2, 6 4 が挿入される。第1回転子 6 1 の入力軸 6 2 の外周面には、周方向に沿つて複数個のコイル 7 5 が設けられる。第2回転子 6 3 は円筒状に形成され、内周面には周方向に沿つて、入力軸 6 2 の設けられたコイル 7 5 に相対する位置にコイル 7 6 が設けられる。

前記コイル 7 5, 7 6 と、図示しないケーブルとを電気的に結合するために、スリップリング 7 7, 7 8 が設けられ、ブラシ 7 9, 8 0 が摺接する。このコイル 7 5, 7 6 と、スリップリング 7 7, 7 8 とは、図示しない構成によって電気的に接続される。両入力軸 6 2, 6 4 とスリップリング 7 7, 7 8 との間には、円板状の絶縁体 8 1, 8 2 が介在される。

図示しないケーブルから、ブラシ 7 9 およびスリップリング 7 7 を介して直流電流がコイル 7 5 に与えられる。これによってコイル 7 5 と磁気結合したコイル 7 6 には誘導起電力が生じ、スリップリング 7 8 およびブラシ 8 0 を介して、前記起電力を導出することができる。

遊星歯車装置 1 3 a および第1回転子 6 1 の入力軸 6 2 には、第1実施例同様に、それぞれ第1制御手段 3 3 および第2制御手段 4 5 が設けられ、枠体 5 に固定されている。

以上のように本実施例に示されるように、第1回転子 6 1 と第2回転子 6 3 とを相互に逆方向に回転可能にしたことによって、入力軸 6 2 の入力軸 6 4 に対する相対速度が向上され、第1実施例の場合と比較して、同じ風速であつても、より一層の発電効率を向上することが可能である。

効 果

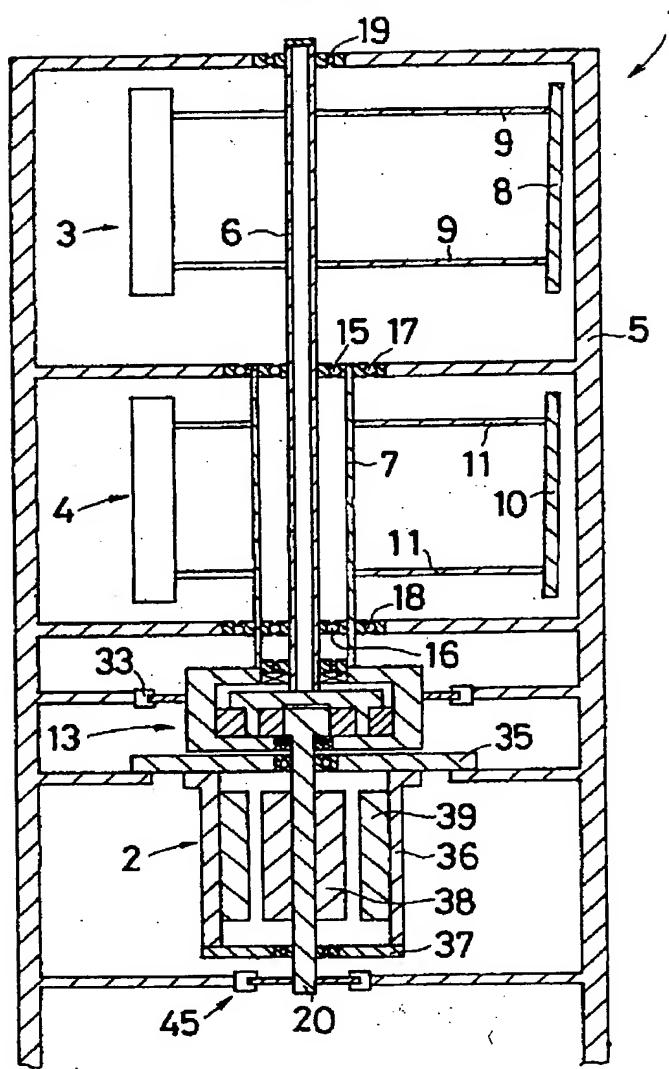
以上のように本発明によれば、相互に逆回転方向に回転する少なくとも2つの回転軸に遊星歯車装置を連結し、遊星歯車装置の太陽歯車の回転動力を出力するようにしたことにより、一方向に流過する流体の速度が不充分であつても、充分に高い回転速度の出力を得ることができる。特に本発明では、第1太陽歯車には第1コイルを固定し、リング歯車には第2コイルを固定し、これらの第1および第2コイルは第1および第2スリップリングとブラシとによって、外部の電気回路と接続され、第1および第2コイルのいずれか一方を励磁して、他方から起電力を導出するようにしたので、第1コイルと第2コイルとの相対速度を一層向上することができるという優れた効果が達成される。

図面の簡単な説明

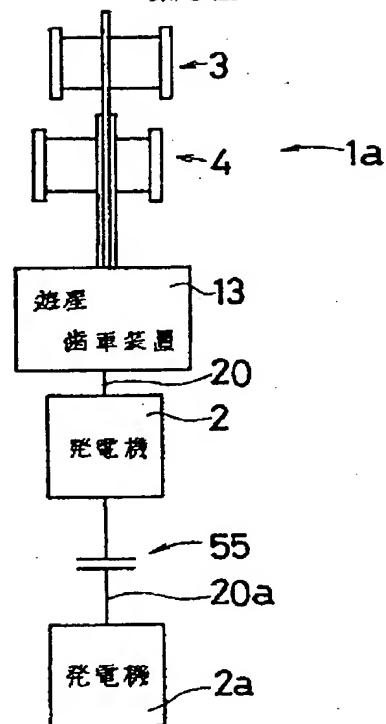
第1図は本発明の基礎となる構成を示す発電機 1 の縦断面図、第2図は発電手段 2 付近の拡大断面図、第3図は発電機 1 の回転部分付近の斜視図、第4図は第3図の切面線IV-IV から見た断面図、第5図は遊星ローラ装置 5 0 の平面図、第6図は本発明の基礎となる構成を示す他の発電機 1 a の簡略化したプロック図、第7図は本発明の一実施例の拡大断面図である。

1, 1 a ……発電機、3, 4 ……羽根車、6 ……第1回転軸、7 ……第2回転軸、1 3, 1 3 a ……遊星歯車装置、2 0, 2 0 a, 6 2, 6 4 ……入力軸、2 1 ……遊星歯車、2 2, 2 2 a ……リング歯車、2 3 ……太陽歯車、5 0 ……遊星ローラ装置。

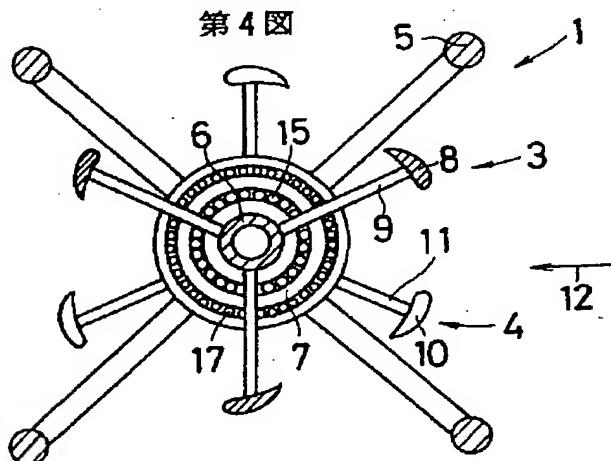
第1図



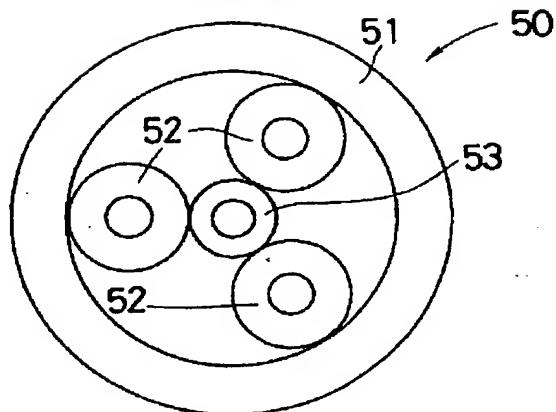
第6図



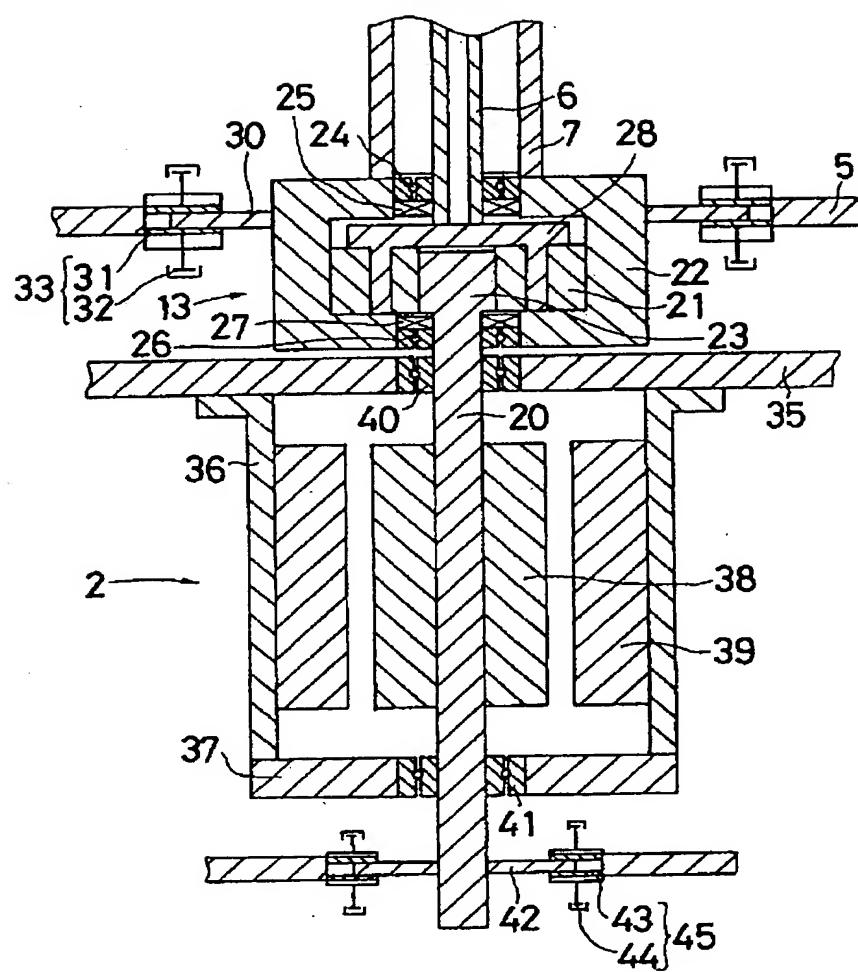
第4図



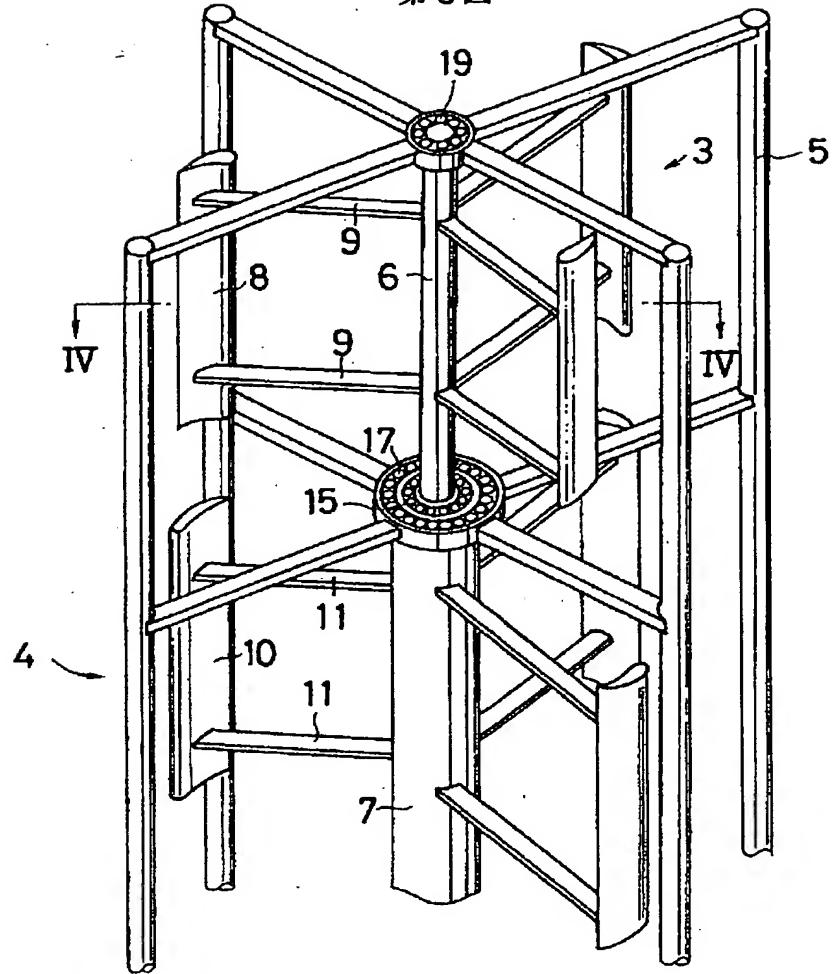
第5図



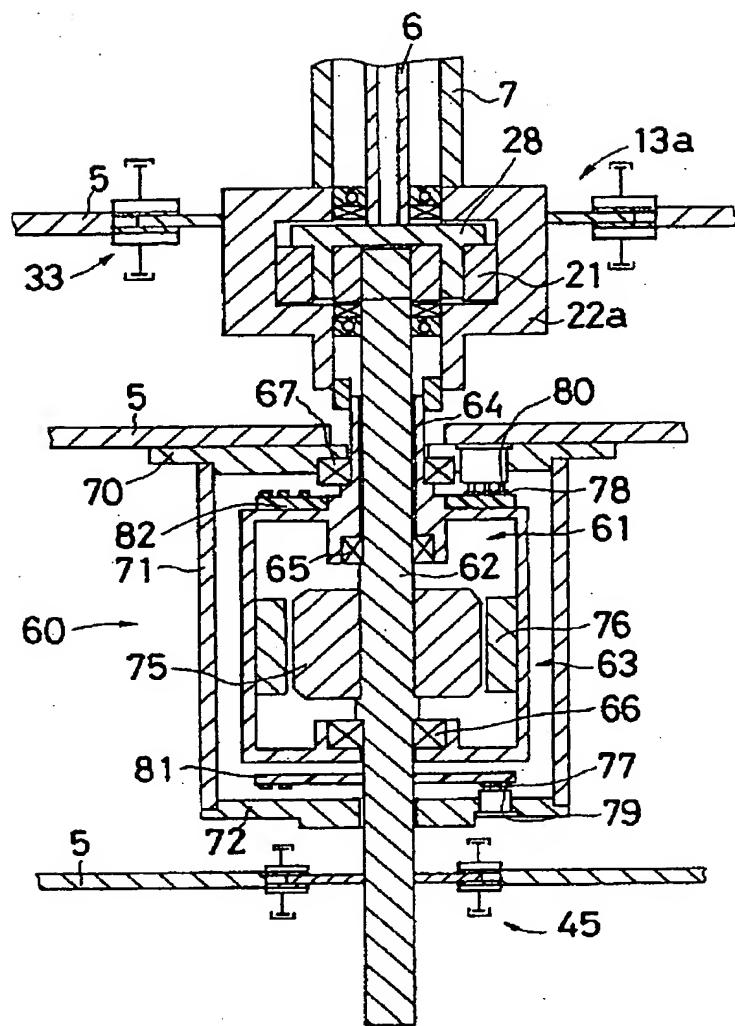
第2図



第3図



第7図



**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning
Operations and is not part of the Official Record.**

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- BLACK BORDERS**
- IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES**
- FADED TEXT OR DRAWING**
- BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING**
- SKEWED/SLANTED IMAGES**
- COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS**
- GRAY SCALE DOCUMENTS**
- LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT**
- REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY**
- OTHER:** _____

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.